

Accuphase

COMPACT DISC PLAYER

CDプレーヤー

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO

DP-450

取扱説明書



ご使用の前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読み
のうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きか
えにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保管してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
 最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

5年間の品質保証と保証書

本機の品質保証は5年間です。付属の「お客様カード（保証書発行はがき）」に必要事項を記入の上、必ず（なるべく10日以内）でご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

*「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは24ページをご参照ください。

*「品質保証書」はサービスサポート時に必要となります。保証書がない場合は、全て有償修理となりますので、保証登録を行っていただき、届きました保証書を大切に保管してください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、保証は日本国内のみ適用されます。

The Accuphase warranty is valid only in Japan.



マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。



警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。



注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

付属品をご確認ください

- | | |
|-----------------------------|----------------------------------|
| ●取扱説明書（本書）…………… 1冊 | ●単3乾電池 …………… 2個 |
| ●安全上のご注意…………… 1冊 | ●AC電源コード(2m) …………… 1本 |
| ●品質保証書について／ | ●プラグ付オーディオ・ケーブル(1m)(AL-10) …… 1組 |
| お客様カード(保証書発行はがき) …………… 1枚 | ●USBユーティリティ3 CD …………… 1枚 |
| ●目隠しシール…………… 1枚 | ●USBユーティリティ3・セットアップガイド …… 1冊 |
| ●リモート・コマンダー RC-140 …………… 1個 | |

ご注意

- ①本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改題することはおやめください。
- ②本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- ③本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。

目次

付属品をご確認ください……………表紙裏頁

| | | | |
|-------------------------------------|------------|---------------------------------|--------------|
| 1. 安全上必ずお守りください …………… | 2,3 | 4. 接続図 …………… | 9 |
| △警告…………… | 2 | 5. リモート・コントロール …………… | 10 |
| お使いになる前に…………… | 2 | 6. ご使用方法 …………… | 11~16 |
| △注意/快適にお使いいただくために/お手入れ…………… | 3 | 6.1 基本的な演奏…………… | 11 |
| 2. 各部の名前 …………… | 4,5 | 6.2 ディスプレイ部の表示…………… | 12 |
| 2.1 フロントパネル、 10 ディスプレイ部…………… | 4 | STOP中の表示…………… | 12 |
| 2.2 リモート・コマンダー RC-140の機能…………… | 5 | PLAY中の表示…………… | 12 |
| 2.3 リアパネル…………… | 5 | サンプリング周波数とビット数の表示…………… | 12 |
| 3. 各部の動作説明 …………… | 6~8 | 6.3 指定した曲から演奏…………… | 13 |
| 3.1 フロントパネル…………… | 6,7 | 6.4 曲の途中から演奏…………… | 13 |
| 1 電源スイッチ…………… | 6 | 6.5 リpeat演奏…………… | 13 |
| 2 INPUTボタン…………… | 6 | 6.6 プログラム演奏…………… | 14 |
| 3 ディスクトレイ…………… | 6 | プログラム演奏を行うには…………… | 14 |
| 4 ▲OPEN/CLOSEボタン…………… | 6 | プログラム内容を確認するには…………… | 14 |
| 5 ▶PLAYボタン…………… | 6 | 表示を切り替えるには…………… | 15 |
| 6 PAUSEボタン…………… | 6 | 通常の演奏に戻すには…………… | 15 |
| 7 ◀◀BACK/NEXT▶▶ボタン…………… | 6 | 6.7 パワー・オン・プレイ機能…………… | 16 |
| 8 ■STOPボタン…………… | 7 | 演奏を開始するトラック番号を指定したい場合…………… | 16 |
| 9 リモート・センサー…………… | 7 | 7. デジタル端子の活用方法 …………… | 17~19 |
| 10 ディスプレイ部…………… | 7 | 7.1 デジタル入力信号の再生…………… | 17 |
| 3.2 リモート・コマンダー RC-140…………… | 7 | 7.2 デジタル・レコーダーでの録音と再生…………… | 18 |
| 11 出力レベル調整ボタン…………… | 7 | 7.3 ヴォイスシング・イコライザーとのデジタル接続…………… | 19 |
| 12 選曲ボタン…………… | 7 | 8. 保証特性 …………… | 20 |
| 13 REPEATボタン…………… | 7 | 9. 特性グラフ …………… | 21 |
| 14 TIMEボタン…………… | 7 | 10. ブロック・ダイアグラム …………… | 22 |
| 15 PROGRAM/CLEARボタン…………… | 7 | 11. 故障かな?と思われるときは …………… | 23 |
| 3.3 リアパネル…………… | 7,8 | 12. アフターサービスについて …………… | 24 |
| 16 デジタル入力端子…………… | 7 | | |
| 17 トランスポート出力端子…………… | 8 | | |
| 18 アナログ出力端子…………… | 8 | | |
| 19 極性切替スイッチ…………… | 8 | | |
| 20 AC電源コネクター…………… | 8 | | |

安全上必ず
お守りください

各部の名前

各部の
動作説明接
続
図リモート・
コントロール

ご使用方法

ディジタル端子
の活用方法

保証特性

特性グラフ

ブロック・
ダイアグラム故障かな?と
思われるときはアフターサービス
について

1. 安全上必ずお守りください

ご使用前にこの「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。



警告

■電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

■電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

- 付属または当社指定の電源コード以外は絶対に使用しない。
- むれた手で電源プラグを絶対に触らない。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしたりしない。
- 電源コードが傷んだら、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

■密閉されたラック等には絶対に設置しない。

- 通風が悪いと機器の温度が上がり、火災や故障の原因となります。

■放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(10cm以上)をとる。

■機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)、新聞紙、テーブルクロスなどを置かない。

■火災又は感電を防止するために、雨がかかる場所又は湿気のある場所では絶対使用しない。

■トップ・プレート(天板)やボトム・プレート(底板)は絶対にはずさない。

- 内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

■脚の交換は危険ですから行わない。

- 取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因となります。

■次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

- 製品に水や薬品などの液体がかかった場合。
- 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
- 落としたり、破損したりした場合。

* 上記の各項目に対して、電源スイッチをOFFにただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

* 万一の場合、電源コードをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

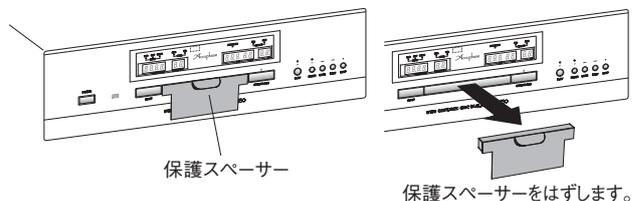
■入・出力端子や、AC電源コネクター、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり、端子部がショートをおこしたりして、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。

(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)

お使いになる前に

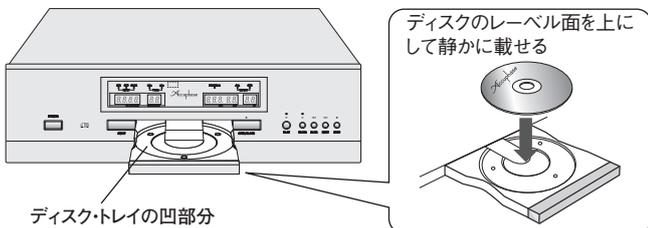
輸送時の振動により、ディスク・トレイとパネルが傷つくのを防止するため、保護スペーサーが差し込んであります。ご使用前にこの保護スペーサーをはずしてください。



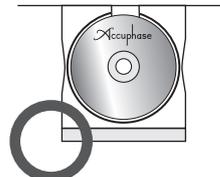
※アフターサービス等の輸送時にも使用しますので、はずした保護スペーサーは保管しておいてください。

ディスクがはみ出さないことを確認してトレイを閉じます

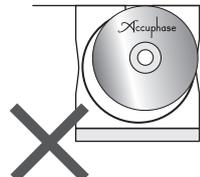
ディスク・トレイの円形のくぼみ(凹)部分から《はみ出さない》ように、ディスクを中央に押しつけず静かに載せてください。



トレイ円形凹部分から《はみ出ない》ように中央に載せる。



トレイ円形凹部分から《乗り上げ》ないように注意する。



- 凹部分から《はみ出して》載せると、ディスクに傷を付ける恐れがあります。
- ディスクを凹部分から《はみ出して》、乗り上げた状態のままトレイを閉じると、挿入口で噛み合い、トレイが途中で動かなくなる恐れがあります。

注意

◆ ディスク・トレイとフロントパネルの間に指が挟まれないように十分注意する。

ディスク・トレイ中央の穴に指を入れた状態でディスク・トレイを閉めると、フロントパネルとディスク・トレイの間に指が挟まり、けがをする恐れがあります。

- ディスク・トレイに異物を挟まない。
故障の原因となります。
- 次のような場所には設置しない。
故障や事故の原因となります。
 - 通風が悪い場所
 - 湿度の高い場所
 - 埃の多い場所
 - 直射日光の当たる場所
 - 暖房器具の近くなど温度の高い場所
 - 極端に温度の低い場所
 - 振動のある場所
 - 傾斜のある場所
 - 不安定な場所
- パワーアンプなど他の機器に直接重ねて設置しない。
故障の原因となります。
- レーザー光源をのぞき込まない。
視力障害の原因となります。
- 室温35°C以下で使用する。
故障の原因となります。

- チューナーやテレビ、DVDレコーダー等から離して設置する。
近くに置くと雑音や映像の乱れが生じることがあります。(特に室内アンテナの場合はご注意ください。)
アンテナ線と本機の電源コードや入・出力ケーブルを離して設置してください。
- 市販のレンズ・クリーナーを使用しない。
故障の原因となります。本機は埃が入り難い構造になっておりますので、レンズ・クリーナーの使用は推奨していません。
- 入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切ってから行なう。
ラインケーブルのプラグを抜き差しするときは、一瞬GND側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する恐れがあります。
- 電源スイッチは、各機器が正しく接続されてから入れる。
故障の原因となります。
- 電源スイッチを切ってから、10秒以内に再びONしない。
ノイズ発生などの原因となることがあります。
- 長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。
より安全にお使いいただけます。
- 演奏の前にボリュームを絞っておく。
不用意にボリュームを上げると、思わぬ大音量でアンプやスピーカーを破損することがあります。

快適にお使いいただくために

- 本機で再生できるのは、CDの標準規格に合致したディスクだけになります。ディスクには必ず、CDマークが印刷されていますので、使用前にCDマークの有無をご確認ください。また、ディスク・パッケージの内容をよくお読みください。



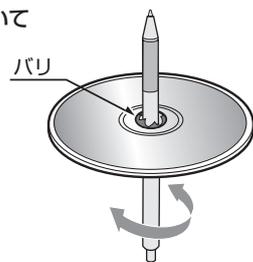
本機で再生できないディスクの例

- CD-ROM
- DVD
- SA-CD
- DVD-Audio
- DSDディスク
- CD-RW
- dts-CD
- MP-3
- Blu-ray Disc
- 8cm CD

※誤って使用するとノイズを発生する場合があります。
※CD EXTRA、CD-Rなどは録音状態によっては正常な動作をしないときがあります。

- CCCDの再生は、動作・音質を保証できません。
 - コピー・コントロールCD(CCCD)など『著作権保護技術付音楽ディスク』は、現在のCD規格に準拠していない特殊ディスクのため、当社のCD再生機器による再生の動作・音質は保証できません。
 - CCCD等の詳細につきましては、ディスクの発売元にお問い合わせください。
- 光学系ピックアップの結露について
冬期、暖房で暖められた部屋の窓ガラスに水滴が付くように、CDプレーヤーでも以下の環境でピックアップ・レンズが結露し、本来の読み取りが行えず、正常に動作しないことがあります。
 - ストーブなどの暖房器具を点けた直後
 - 本機を湿度が非常に高い部屋に置いた場合
 - 冷房や屋外で冷えた本機を、急に暖かい部屋に持ち込んだ場合
 このような場合には、電源を入れてディスクを取り出し、1時間ほど経過すると結露は自然になくなり、正常に動作します。

- CD-Rなど表面に印刷可能な加工処理が施されているディスクについて
本体内部に貼り付き、取り出しができなくなる事があります。
- ディスクへのラベル貼付について
故障の原因になりますので、ディスクにはラベルを貼らないでください。
- バリの残っているディスクの再生について
ディスクのセンター・ホールにはバリ(右図参照)が残っていることがあります。このようなディスクは再生しなかったり、音飛びが起きたりする場合がありますので、バリを細い棒状のもの(プラスチック製のボールペンなど)で取り除いてから再生してください。



- ディスクの取り扱いについて
 - 直射日光が当たる場所や、高温多湿の場所には置かないでください。
 - 演奏終了後は、ホコリ、キズを避けるため、必ずケースに入れて保管してください。
 - レーベル面の反対側が信号読み取り面ですので、手で触れないようにしてください。指紋やホコリなどの汚れは音質劣化の原因となります。
 - ディスクのお手入れは、柔らかい布で内側中心から外側へ軽く拭くようにしてください。
 - ベンジン、レコードクリーナー、静電防止剤などは、ディスクを傷めますので使わないでください。

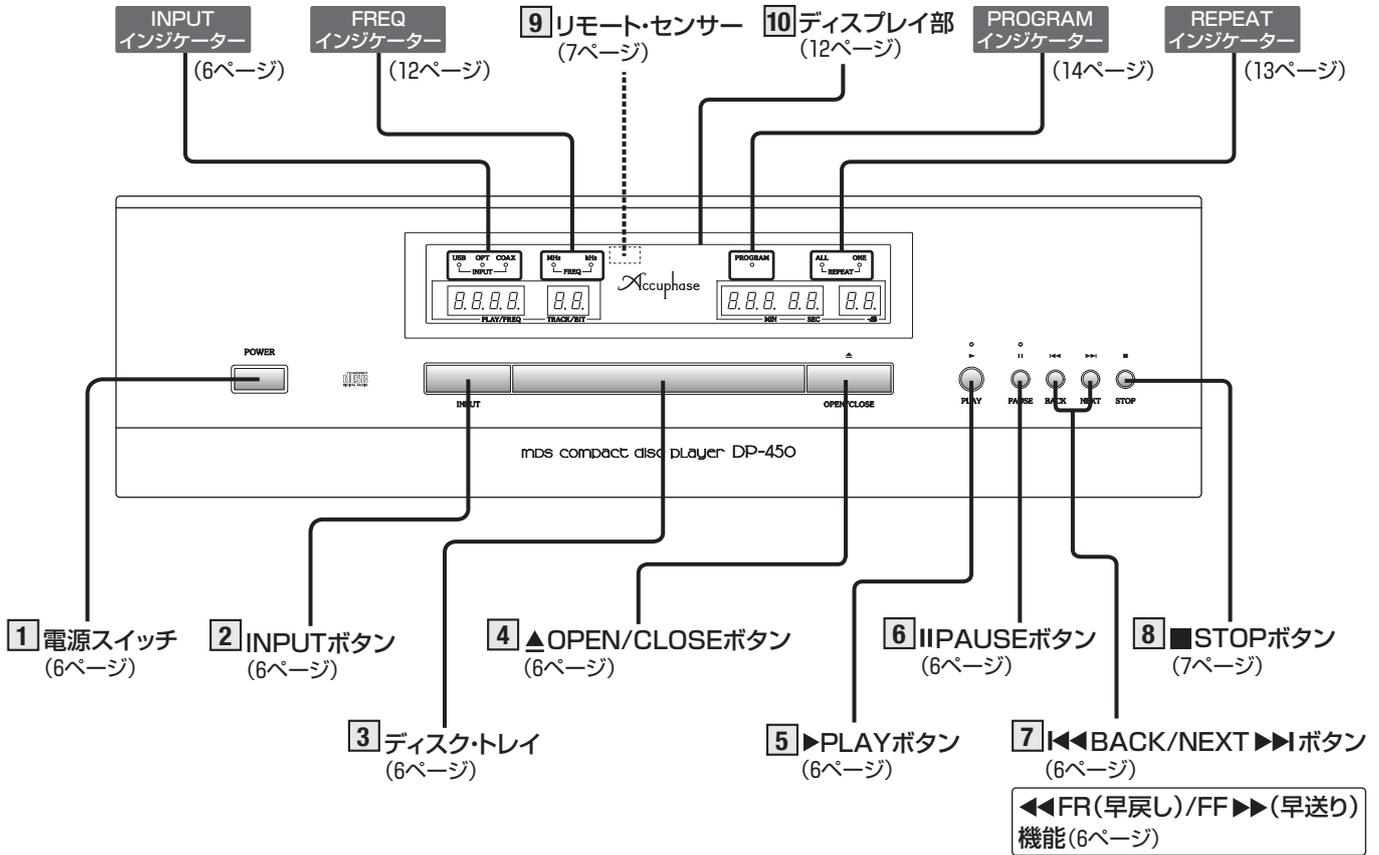
お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のホコリやゴミ、指紋等汚れの拭き取りには「柔らかい布」を使用してください。
- ベンジン、シンナー、油、ワックス等を使用してお手入れは、表面を変色させたり、傷つけたりしますので使わないでください。
- ディスク・トレイ内のお手入れにアルコール類を使用しないでください。アルコールで拭くとディスククッション(3個)が剥れディスクを傷つけるおそれがあります。

2. 各部の名前

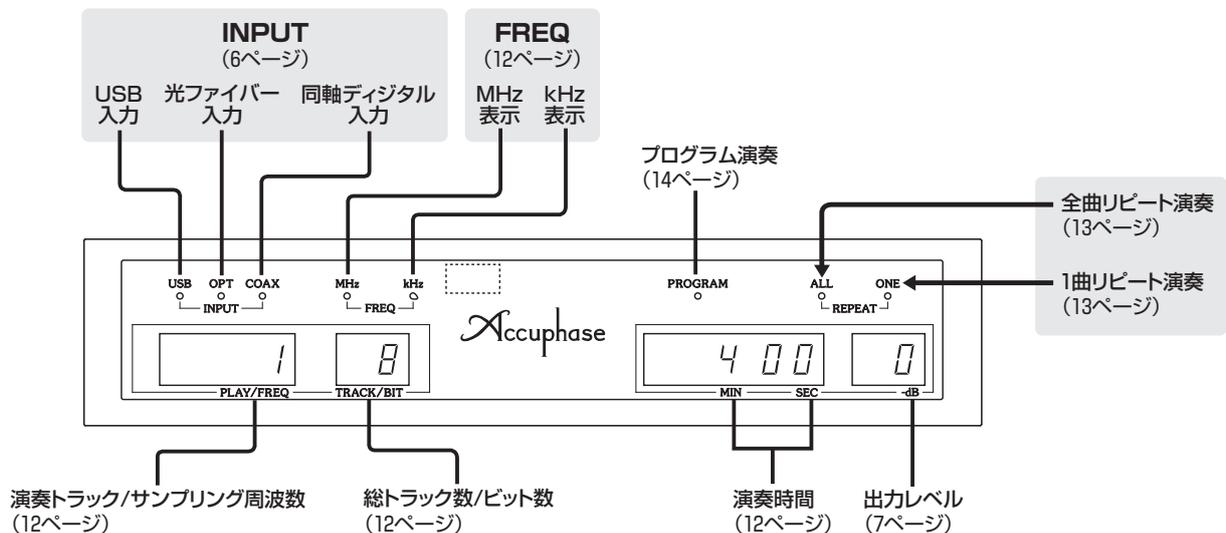
詳しい説明は、各項目()内のページを参照してください。

2.1 フロントパネル



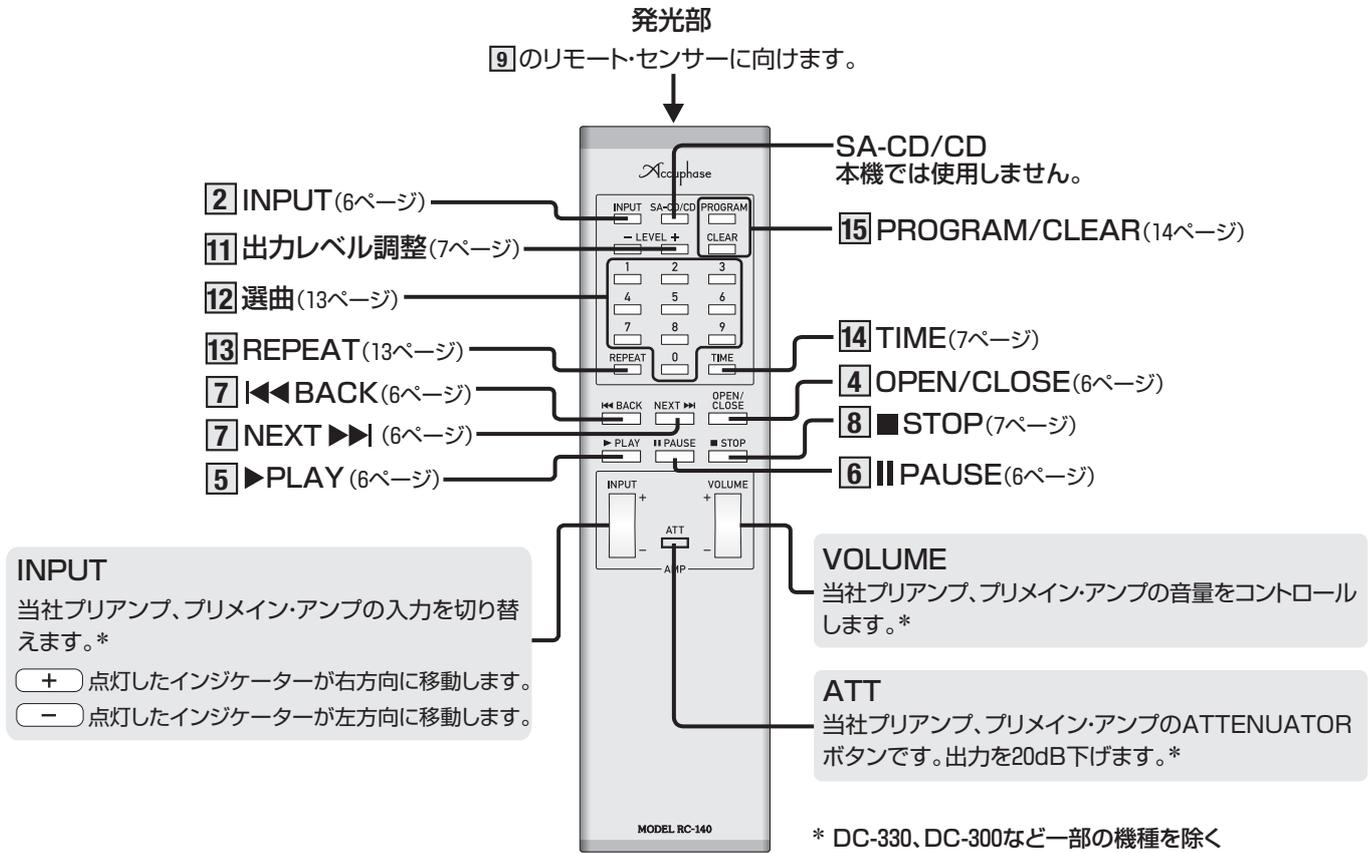
10 ディスプレイ部

ディスプレイ部は本機の動作状態を表示します。

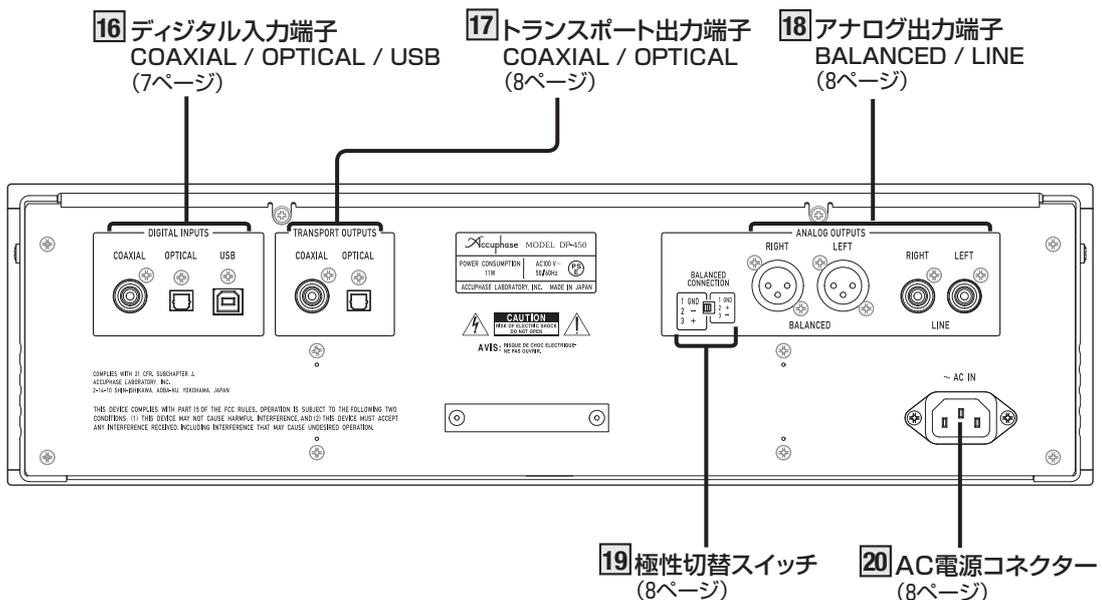


2.2 リモート・コマンダー RC-140の機能

(ご使用方法は10, 11ページ参照)



2.3 リアパネル



3. 各部の動作説明

- 詳しい使用方法は()内のページを参照してください。
- 本説明書では、「トラック」と「曲」を同義で扱っています。

3.1 フロントパネル

1 電源スイッチ

電源を入れる

スイッチを押すと電源が入ります。スイッチ：

- メモ** 電源を入れると左側のディスプレイが点滅し、約3秒間内部のセットアップを行います。

左側ディスプレイ

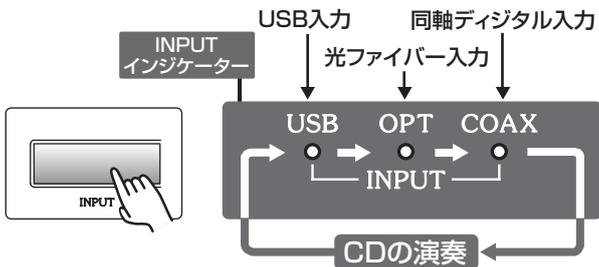


電源を切る

再びスイッチを押すと電源が切れます。スイッチ：

- 注意** 電源を切った後、10秒以内に再び電源を入れしないでください。ノイズ発生などの原因となることがあります。

2 INPUTボタン



本機は**16**デジタル入力信号(USB、OPTICAL、COAXIAL)をアナログ信号へ変換し、**18**アナログ出力端子から出力することができます。

このボタンはCDの演奏から**16**デジタル入力信号に切り替えるためのボタンです。

インジケータが全て消灯していればCDを演奏します。

選択した入力に関係なく、**17**トランスポート出力からは常にCDの信号を出力します。

3 ディスク・トレイ

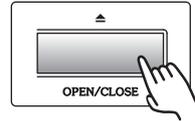
ディスクを搭載するためのトレイです。

4 **▲OPEN/CLOSE** ボタンで開閉します。

- メモ** ディスクをトレイに載せてトレイ前面を軽く押すと、トレイを閉じて演奏を開始します。

- 注意** トレイを開いたまま電源を切っていた場合、再び電源を入れた時にトレイが自動的に閉じますので、指やディスクを挟まないようにご注意ください。

4 ▲OPEN/CLOSEボタン



ディスク・トレイを開閉させるためのボタンです。

- メモ** トレイにディスクを載せて**▲OPEN/CLOSE** ボタンを押すと、トレイを閉じてSTOP状態になります。

5 ▶PLAYボタン

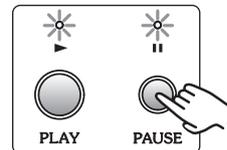


演奏を開始させるためのボタンです。

PAUSE中に押すと演奏を再開します。

- メモ** ディスクをトレイに載せて**▶PLAY** ボタンを押すと、トレイを閉じて演奏を開始します。

6 ||PAUSEボタン

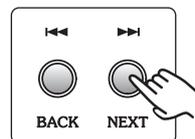


PLAY 中 演奏を一時停止します。

PAUSE 中 演奏を再開します。

- メモ** ディスクをトレイに載せて**||PAUSE** ボタンを押すと、トレイを閉じて1曲目のPAUSE状態になります。

7 ◀◀BACK/NEXT▶▶ボタン



演奏トラックの変更や、早戻し/早送りを行うためのボタンです。

◀◀BACK 1回押すとそのトラックの先頭に戻ります。続けて押すと順次、前のトラックの先頭へジャンプします。

NEXT▶▶ 1回押すと次のトラックの先頭へジャンプします。続けて押すと順次、次のトラックの先頭へジャンプします。

◀◀FR(早戻し)/FF▶▶(早送り)機能

演奏中に押し続けると、◀◀FR(早戻し)/FF▶▶(早送り)動作となります。

8 ■STOPボタン



演奏を停止させるためのボタンです。

9 リモート・センサー

リモート・コマンダー RC-140の赤外線信号の受光部です。

10 ディスプレイ部

本機の動作状態を表示します。

表示例については12ページをご参照ください。

3.2 リモート・コマンダー RC-140

11 出力レベル調整ボタン



アナログ出力のレベルを調整するためのボタンです。

1dBステップで0dB～-60dBの可変が可能です。通常は0dBで使用します。

出力レベルを絞り切ることできません。

他のプレーヤーとのレベルの違いを調整するときなどに、ご使用いただけます。

13 REPEATボタン

リピート演奏を行うためのボタンです。

リピート演奏については、13ページをご参照ください。

14 TIMEボタン

ディスプレイ部の表示を切り替えるためのボタンです。

ボタンを押すと、以下のように表示を切り替えます。



表示例については12ページをご参照ください。

12 選曲ボタン

トラック番号を選択するためのボタンです。

ご使用方法については、13ページをご参照ください。

15 PROGRAM/CLEARボタン

プログラム演奏のためのボタンです。

プログラム演奏については14ページをご参照ください。

3.3 リアパネル

16 デジタル入力端子 (9ページ参照)

デジタル信号を入力するための端子です。

接続ケーブル

| 端子 | ケーブル |
|---------|---------------------------|
| USB | USB2.0タイプBコネクタ付ケーブル(2m以内) |
| OPTICAL | 光ファイバー・ケーブル(JEITA規格) |
| COAXIAL | 75Ω同軸デジタル・ケーブル |

USB端子を使用するには、PCと接続する前に、PCにUSBドライバソフトをインストールする必要があります。

詳細は別冊のUSBユーティリティ3・セットアップガイドをご覧ください。

サンプリング周波数/ビット数

| 入力 | フォーマット (2ch) | サンプリング周波数 | ビット数 |
|---------|--------------|---|-------|
| USB | DSD | 2.8 / 5.6 / 11.2MHz (11.2MHz : ASIOのみ) | 1 |
| | PCM | 32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 / 352.8 / 384kHz | 16~32 |
| OPTICAL | PCM | 32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96kHz | 16~24 |
| COAXIAL | PCM | 32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz | 16~24 |

注意 OPTICALとCOAXIALの入力端子には、PCM信号を入力してください。送信機器側でPCM信号への切り替えが必要な場合もあります。

17 トランスポート出力端子 (9ページ参照)

CDのデジタル信号を出力するための端子です。ヴォイスング・イコライザー、D/Aコンバーター、デジタル入力端子を装備したレコーダー等との接続が可能です。ヴォイスング・イコライザーとの接続は19ページをご参照ください。

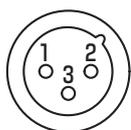
接続ケーブル

| 端子 | ケーブル |
|---------|----------------------|
| OPTICAL | 光ファイバー・ケーブル(JEITA規格) |
| COAXIAL | 75Ω同軸デジタル・ケーブル |

メモ **INPUT** ボタンで選択した入力に関係なく、トランスポート出力からは常にCDの信号を出力します。

18 アナログ出力端子 (9ページ参照)

アナログ信号を出力するためのバランス/ライン出力端子です。バランス出力端子とライン出力端子の両方から同時にアナログ信号を出力します。

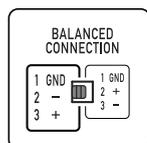


| | |
|---|-----|
| 1 | GND |
| 2 | - |
| 3 | + |

バランス出力端子のピンの極性

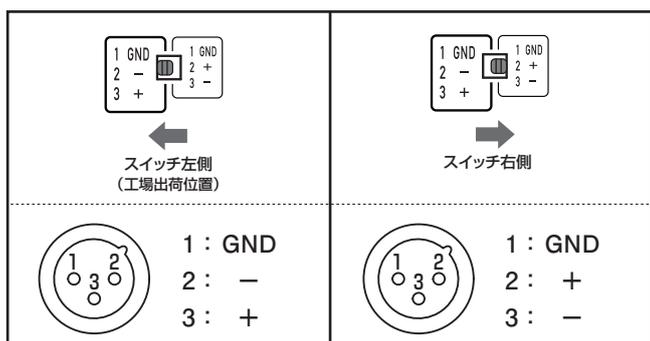
メモ バランス出力端子の極性は**19**極性切替スイッチで切り替えることができます。バランス・ケーブルは当社で販売しております。

19 極性切替スイッチ



18アナログ・バランス出力端子の極性を切り替えるためのスイッチです。

当社製品(一部のプロ機器を除く)と接続する場合は、スイッチを左側(工場出荷位置)のままご使用ください。接続する機器の極性が本機と異なる場合は、スイッチを右側にしてください。ただし、極性は必ずしも合わせる必要はありません。合わせなくても演奏は可能です。



20 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。



電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

■電源コードに付いているアース線の接続

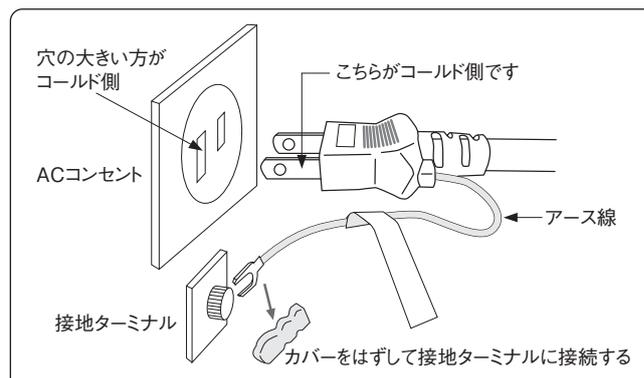
付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

■入・出力端子や、AC電源コネクター、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

経年劣化による樹脂部の破損や、端子部のショートにより、感電や火災あるいは故障の原因になることがあります。

(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)



アース線の接地用ターミナルへの接続は、必ずプラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース線を外すときは必ずプラグをコンセントから抜いてから行ってください。

■電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

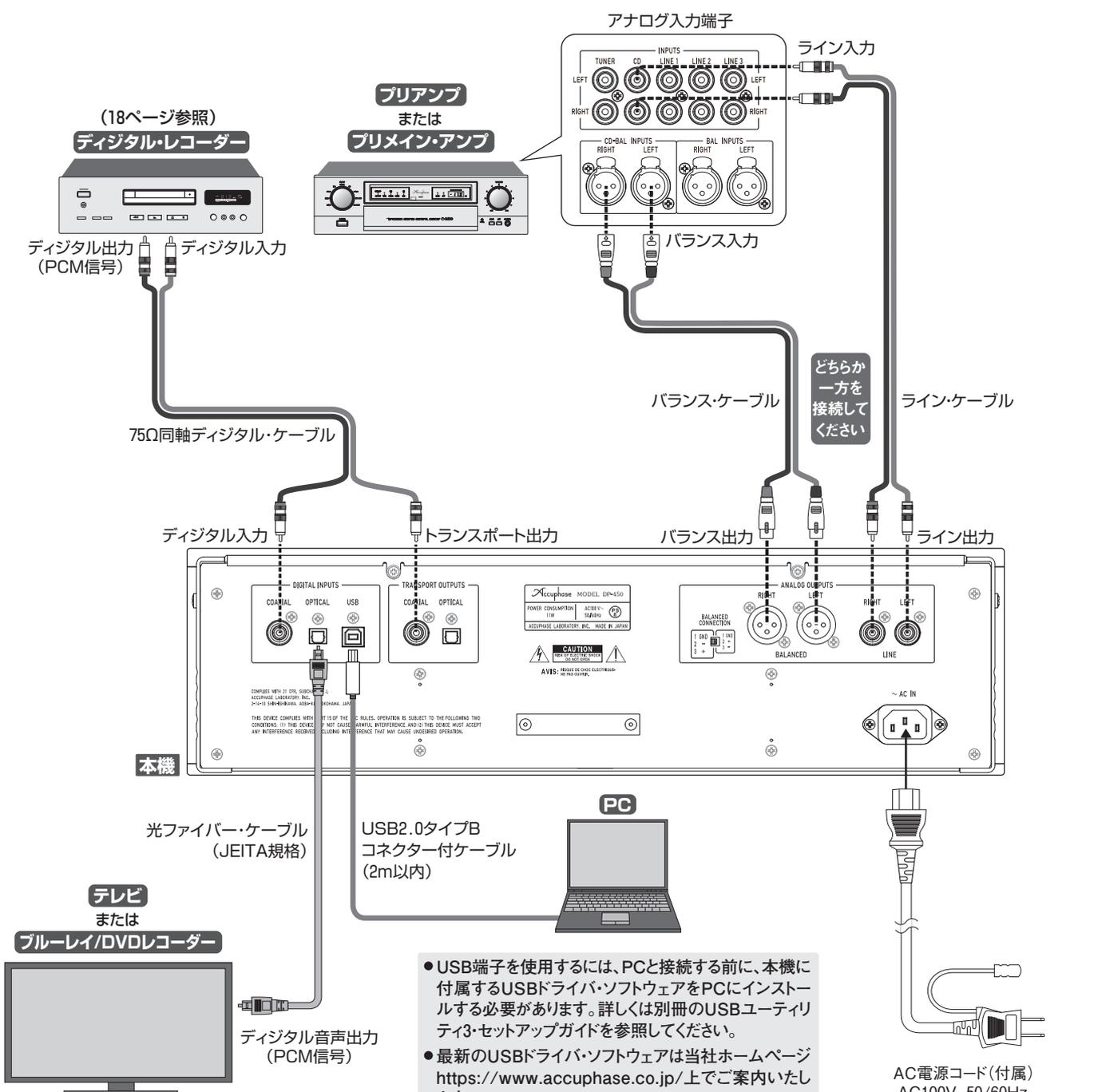
◆注意

- 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。
- 大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。

4. 接続図

注意 : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

- 注意**
- アナログ出力の接続はオーディオケーブルを使用し、LEFT/RIGHTを正しく接続してください。
 - バランスケーブルとラインケーブルは同じ機器に同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。
 - DAC内蔵アンプ(デジタル入力用のオプションを増設したアンプ等)に、デジタル同軸出力とアナログ出力を同時に接続しないでください。



- USB端子を使用するには、PCと接続する前に、本機に付属するUSBドライバソフトウェアをPCにインストールする必要があります。詳しくは別冊のUSBユーティリティ3・セットアップガイドを参照してください。
- 最新のUSBドライバソフトウェアは当社ホームページ <https://www.accuphase.co.jp/> 上でご案内いたします。
- USB端子に接続したPCの設定や操作方法はPCの取扱説明書をご覧ください。
- USBケーブルは2m以内を推奨します。

注意 デジタル音声出力をPCM信号に設定してください。

各部の
動作説明
接続
図

5. リモート・コントロール

ご使用方法

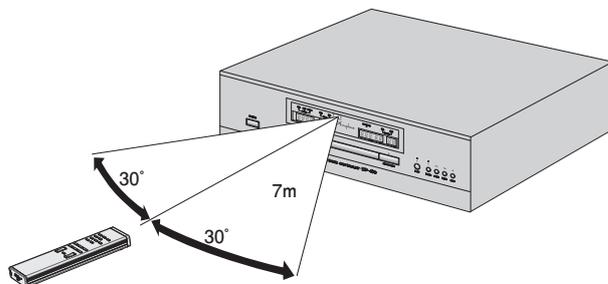
リモート・コマンドの発光部を本体の⑨リモート・センサーに向けて、図の範囲内でご使用ください。

乾電池について

■乾電池の交換時期

操作距離が短くなってきたら乾電池の交換時期ですので、新しい乾電池と交換してください。

- 使用する乾電池は、単3形を2個、両方とも新しい乾電池に交換してください。
- 乾電池を廃棄する場合は、法律、条例などで定められた方法にしたがってください。



警告

- 乾電池は充電しない。電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。
- 電池ケースの電極部に金属類が触れないようにする。

注意

■乾電池について

乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。

- 乾電池の向きは電池ケースに示されている通り、⊕（プラス）、⊖（マイナス）を正しく合わせる。
- 新しい乾電池と、1度使用したものを混ぜない。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。
- 長時間にわたりコマンドを使わないときは、乾電池を抜いておく。
- 万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

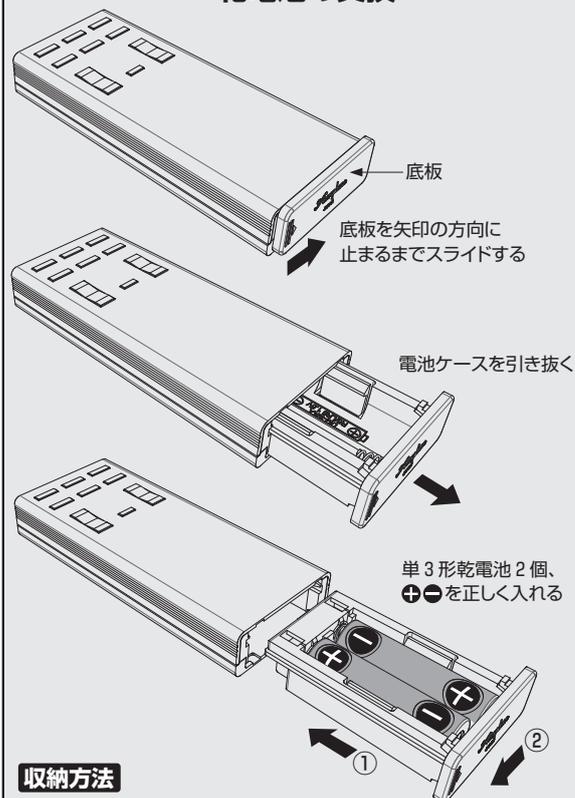
■テレビやインバーター照明等の近くに設置した場合、リモコンの動作が不安定になることがあります。故障ではありません。置く向きを変えたり、お互いに離したりしてお使いください。

■リモコンを落としたり、液体をこぼしたりしないようにしてください。

■直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。

■電池の消耗を早めますので、リモコンの上に物を置いて、ボタンが押されたままの状態にしないでください。

乾電池の交換



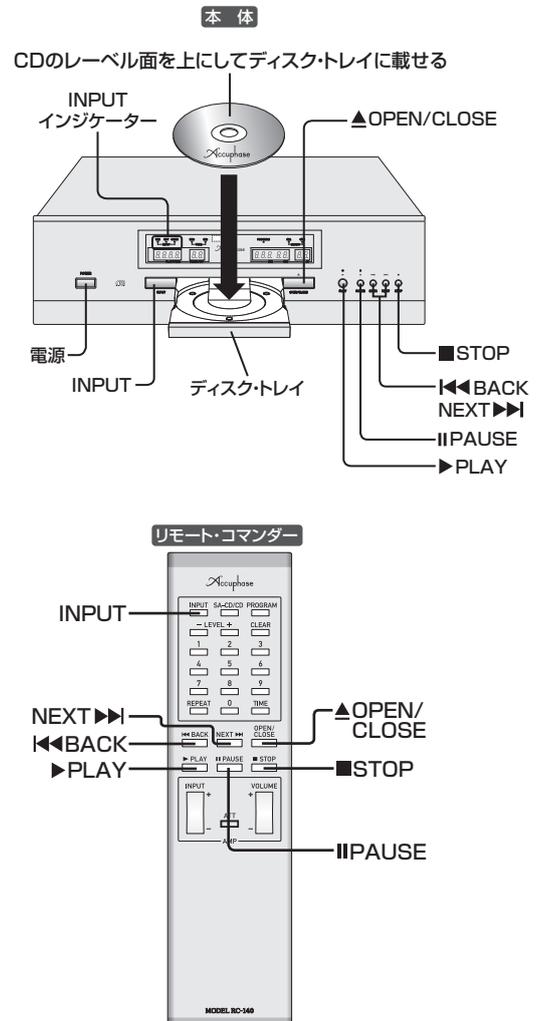
収納方法

電池ケースをしっかり押し込んで①
底板を矢印方向にスライドして収納する②

6. ご使用方法

6.1 基本的な演奏

- 1 電源スイッチを押し、電源を入れます。
- 2 INPUTインジケータにUSB, OPT, COAXのLEDが点灯している場合には、表示が消えるまで **INPUT** ボタンを押します。(6ページ参照)
- 3 **▲ OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスク・トレイを開きます。
- 4 レーベル面を上にして、ディスクをディスク・トレイに載せます。
- 5 **▶ PLAY** ボタンを押すとディスク・トレイが閉じて、第1曲目から演奏がはじまります。
- 6 最終トラックの演奏が終了すると、STOP状態になります。
- 7 **▲ OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスク・トレイを開きディスクを取り出します。ディスクを取り出した後、ディスク・トレイは必ず閉じておきます。



| ボタン | 動作 |
|--------------|----------------|
| ▶PLAY | STOP状態 ⇨ 演奏開始 |
| | PAUSE状態 ⇨ 演奏再開 |
| ■STOP | 演奏停止 |
| PAUSE | PLAY状態 ⇨ 一時停止 |
| | PAUSE状態 ⇨ 演奏再開 |
| NEXT▶▶ | 次の曲へ進む |
| ◀◀BACK | 演奏中または前の曲へ戻る |
| ▲ OPEN/CLOSE | ディスク・トレイの開閉 |

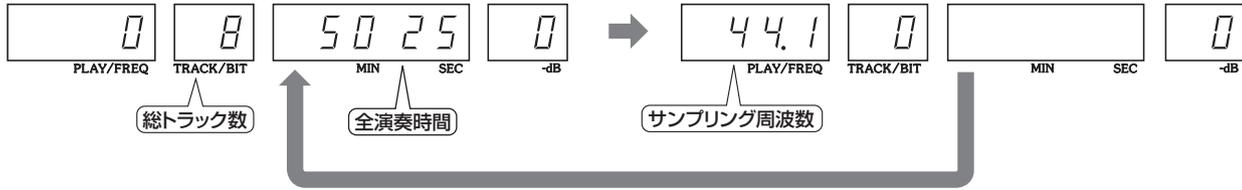
6.2 ディスプレイ部の表示

ディスプレイ部は、ディスクや演奏中の曲に関する情報を表示します。

※テキスト情報の表示はできません。

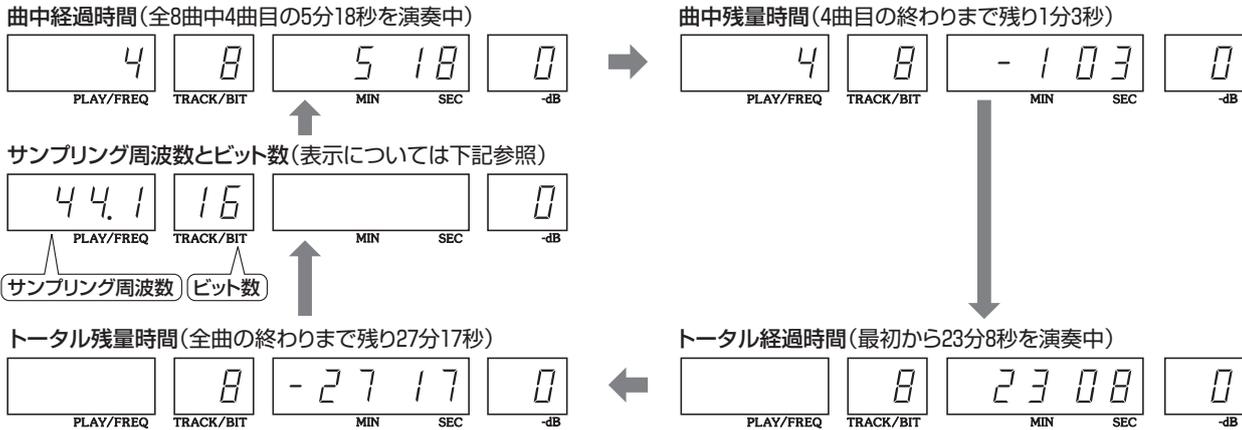
STOP中の表示

リモート・コマンドーの[TIME]ボタンを押すたびに、以下のように表示を切り替えます。



PLAY中の表示

リモート・コマンドーの[TIME]ボタンを押すたびに、以下のように表示を切り替えます。



※プログラム演奏中の表示切り替えについては、15ページをご参照ください。

サンプリング周波数とビット数の表示

- デジタル入力がロックインしたとき、5秒間サンプリング周波数とビット数を表示します。
- リモート・コマンドーの[TIME]ボタンでサンプリング周波数表示を選択すると、FREQインジケーターのいずれかのLEDが点灯し、サンプリング周波数とビット数を表示します。
- サンプリング周波数表示を選択中にCD関係のキーを操作すると、5秒間ディスク情報等の表示に切り替わります。

| 信号 | リニア PCM | 1bit DSD | ロックしていない時 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|--|-----------|-----------|-----------|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|---|-----------|-----------|---|-----------|-----------|--|-----|-----|-----------|-----------|------|-----------|--|----|-----------|
| FREQ インジケーター | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| サンプリング 周波数 | <table border="0"> <tr> <td>32.0</td><td>44.1</td><td>48.0</td><td>88.2</td><td>96.0</td> </tr> <tr> <td>PLAY/FREQ</td><td>PLAY/FREQ</td><td>PLAY/FREQ</td><td>PLAY/FREQ</td><td>PLAY/FREQ</td> </tr> <tr> <td>176.4</td><td>192.0</td><td>352.8</td><td>384.0</td><td></td> </tr> <tr> <td>PLAY/FREQ</td><td>PLAY/FREQ</td><td>PLAY/FREQ</td><td>PLAY/FREQ</td><td></td> </tr> </table> | 32.0 | 44.1 | 48.0 | 88.2 | 96.0 | PLAY/FREQ | PLAY/FREQ | PLAY/FREQ | PLAY/FREQ | PLAY/FREQ | 176.4 | 192.0 | 352.8 | 384.0 | | PLAY/FREQ | PLAY/FREQ | PLAY/FREQ | PLAY/FREQ | | <table border="0"> <tr> <td>2.8</td><td>5.6</td> </tr> <tr> <td>PLAY/FREQ</td><td>PLAY/FREQ</td> </tr> <tr> <td>11.2</td> </tr> <tr> <td>PLAY/FREQ</td> </tr> </table> | 2.8 | 5.6 | PLAY/FREQ | PLAY/FREQ | 11.2 | PLAY/FREQ | <table border="0"> <tr> <td>--</td> </tr> <tr> <td>PLAY/FREQ</td> </tr> </table> | -- | PLAY/FREQ |
| 32.0 | 44.1 | 48.0 | 88.2 | 96.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PLAY/FREQ | PLAY/FREQ | PLAY/FREQ | PLAY/FREQ | PLAY/FREQ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 176.4 | 192.0 | 352.8 | 384.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PLAY/FREQ | PLAY/FREQ | PLAY/FREQ | PLAY/FREQ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.8 | 5.6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PLAY/FREQ | PLAY/FREQ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PLAY/FREQ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| -- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PLAY/FREQ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ビット数 | <table border="0"> <tr> <td>0</td><td>.....</td><td>16</td><td>.....</td><td>24</td><td>.....</td><td>32</td> </tr> <tr> <td>TRACK/BIT</td><td></td><td>TRACK/BIT</td><td></td><td>TRACK/BIT</td><td></td><td>TRACK/BIT</td> </tr> </table> <p>データがないとき</p> | 0 | | 16 | | 24 | | 32 | TRACK/BIT | | TRACK/BIT | | TRACK/BIT | | TRACK/BIT | <table border="0"> <tr> <td>1</td> </tr> <tr> <td>TRACK/BIT</td> </tr> </table> | 1 | TRACK/BIT | <table border="0"> <tr> <td>-</td> </tr> <tr> <td>TRACK/BIT</td> </tr> </table> | - | TRACK/BIT | | | | | | | | | | |
| 0 | | 16 | | 24 | | 32 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| TRACK/BIT | | TRACK/BIT | | TRACK/BIT | | TRACK/BIT | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| TRACK/BIT | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| TRACK/BIT | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

6.3 指定した曲から演奏

指定したトラックの先頭から演奏を開始することができます。

トラック番号を入力すると、指定したトラック番号が10秒間点滅しますので、点滅中に▶PLAYを押します。

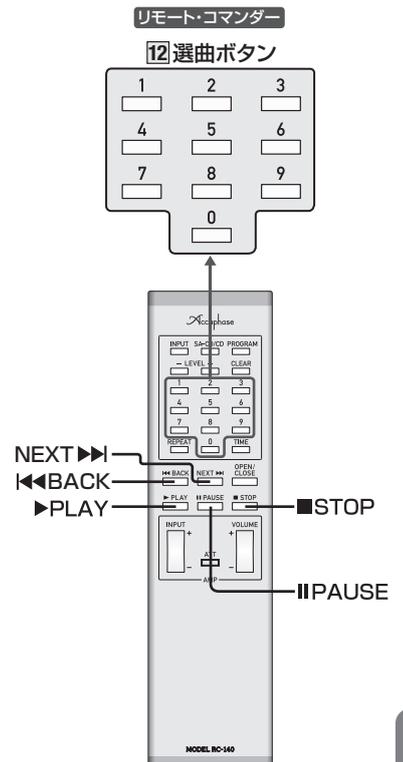
(例) 5曲目の演奏 : 5 → ▶PLAY
 15曲目の演奏 : 1 → 5 → ▶PLAY

指定したトラック番号を解除したい場合には、以下の何れかを行います。

- 10秒間放置する。
- ■STOPを押す。

メモ

- PLAY、STOP中に選曲ボタンと||PAUSEを押すと、指定したトラックの先頭でPAUSE(一時停止)になります。
- PAUSE(一時停止)中に選曲ボタンと▶PLAYを押すと、指定したトラックの先頭から演奏を開始します。
- ◀◀BACK/▶▶NEXTボタンを使って、任意のトラックを選択することも可能です。
- 総トラック数以上のトラックを選曲した場合は、最後のトラックを再生します。
- 選曲できるトラックは、99曲目までです。



ご使用方法

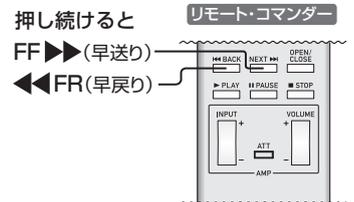
6.4 曲の途中から演奏

- ▶PLAYボタンを押して演奏を開始します。
- ◀◀BACK/▶▶NEXTボタンを押し続けると◀◀FR(早戻し)/▶▶FF(早送り)となります。

再生音が断続的に聴こえますので、希望の部分に近づいたら、ボタンを離します。

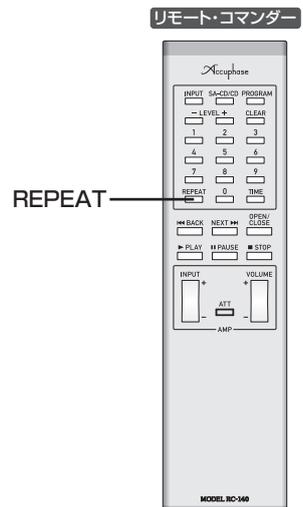
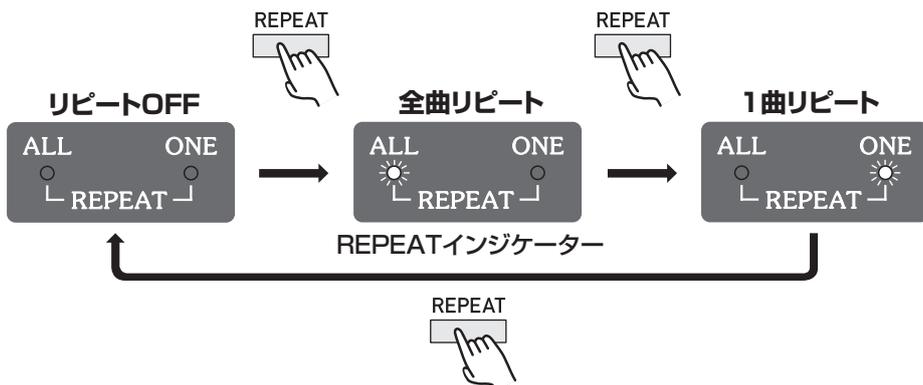
メモ

- STOP/PAUSE中に◀◀FR/▶▶FF機能は使用できません。
- ▶▶NEXTボタンを押し続けて最後の曲の終わりまで進むと、STOP状態になります。



6.5 リピート演奏

- REPEATボタンを押して、全曲または1曲の繰り返し演奏を選択します。
- ▶PLAYボタンを押して演奏を開始します。

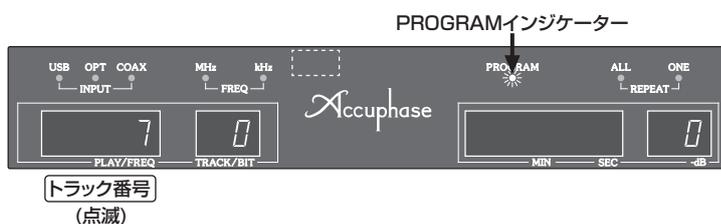


6.6 プログラム演奏

プログラム機能を使えば、最大32曲まで好みの順番で演奏をお楽しみいただけます。
プログラム演奏の操作は、全てリモート・コマンダーのキーで行います。

プログラム演奏を行うには

- 1 STOP状態中に[PROGRAM]ボタンを長押し(2秒以上)すると、**PROGRAMインジケータ**が点灯しプログラム演奏の操作が可能な状態になります。
- 2 演奏したいトラックの選曲ボタンを押します。ディスプレイ上では、選択したトラック番号が点滅します。
選曲ボタンを押し間違えたときは、**STOP**ボタンを押すことで再入力が可能です。



- 3 [PROGRAM]ボタンを押すと選択したトラック番号が記憶されます。ディスプレイ上には、トラック番号、総プログラム数、総演奏時間が表示されます。



- 4 プログラム演奏に、さらにトラックを追加したい場合には、上記2項と3項を繰り返します。

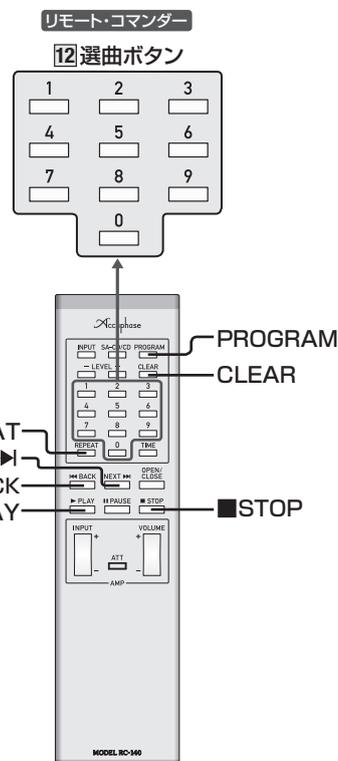
- 5 **▶PLAY**ボタンを押すとプログラムした順番で演奏が始まります。

メモ

- プログラムした内容を変更したい場合は、[CLEAR]ボタンで最後の曲から順番に削除を行い、再び入力します。
- プログラム演奏中に[◀◀BACK]/[NEXT▶▶]ボタンを押すと、プログラムの内容に従ってトラックを移動します。
- プログラム演奏中に選曲ボタンは機能しません。
- プログラム演奏中も[REPEAT]ボタンで、プログラムした全曲のリピート演奏が可能です。1曲のリピート演奏はできません。
- プログラム演奏中に[◀◀BACK]/[NEXT▶▶]ボタンを押し続けると、演奏曲内での◀◀FR(早戻し)/FF▶▶(早送り)動作となります。

プログラムの内容を確認するには

PROGRAMインジケータが点灯していてSTOP状態であれば、**◀◀BACK**/[NEXT▶▶]ボタンを押すことで、プログラムの内容を確認できます。



表示を切り替えるには

PLAY中に**TIME**ボタンを押すと、以下のように表示を切り替えます。
トータル経過時間及びトータル残量時間の表示はできません。

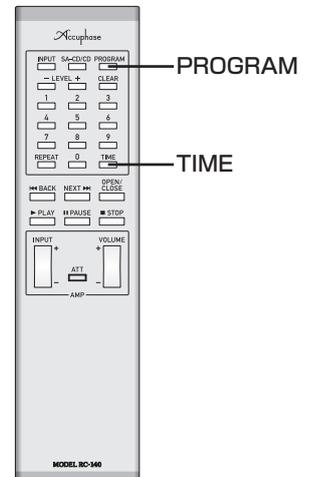
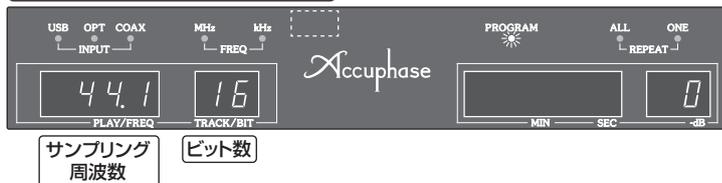
演奏中のトラックの経過時間



演奏中のトラックの残量時間



サンプリング周波数とビット数



通常の演奏に戻すには

下記いずれかの方法で、通常の演奏に戻ります。プログラムの内容は全て削除されます。

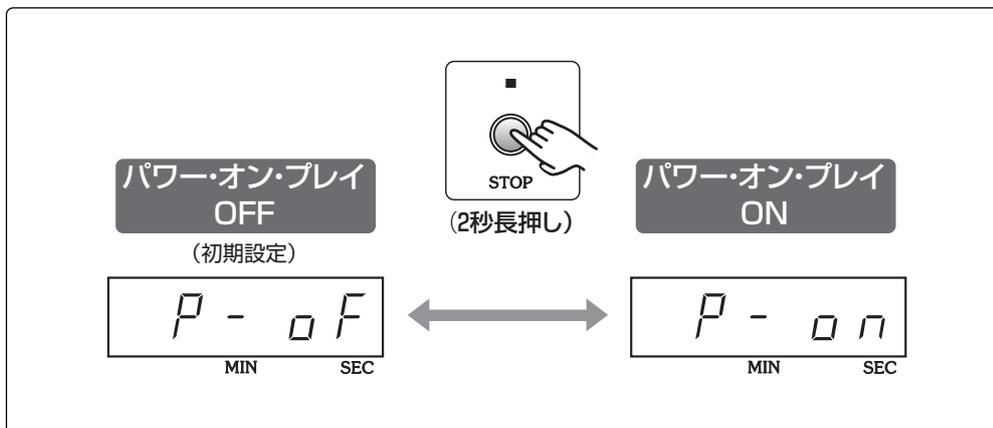
- STOP状態中に**PROGRAM**ボタンを長押し(2秒)して**PROGRAMインジケータ**を消灯させる。
- ディスクトレイをOPENする。
- 本機の電源を切る。

注意

プログラム演奏を解除した後は、プログラムの内容を再び呼び出すことはできません。プログラムの内容を再び入力する必要があります。

6.7 パワー・オン・プレイ機能

パワー・オン・プレイをONに設定すれば、電源が入ると自動的に演奏を開始します。
市販のオーディオ・タイマーと組み合わせることで、ご希望の時間に演奏を開始できます。

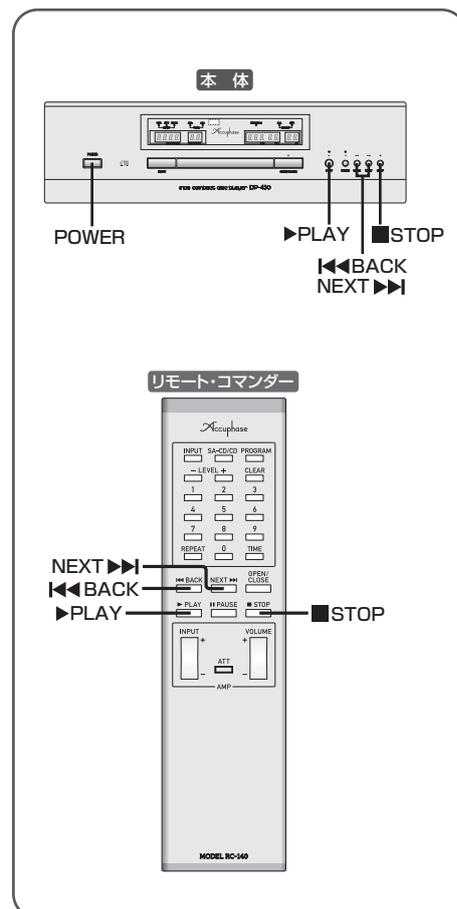


演奏を開始するトラック番号を指定したい場合

- ① P-on表示後、◀◀BACK / ◀◀NEXT▶▶ ボタンを押して、希望のトラック番号を表示させます。
- ② ▶▶PLAY ボタンを押して演奏を開始するか、電源をOFFにするとトラック番号が記憶されます。

メモ

- トラック番号を指定しない場合には、最初のトラックから演奏を開始します。
- [12] 選曲ボタンでは、トラック番号の指定はできません。
- 指定したトラック番号は、再びトラック番号を指定するまで変更されません。
- 指定したトラック番号は、ディスクを交換しても記憶しています。
- 指定したトラック番号が総トラック数より大きい場合には、最後のトラックを演奏します。

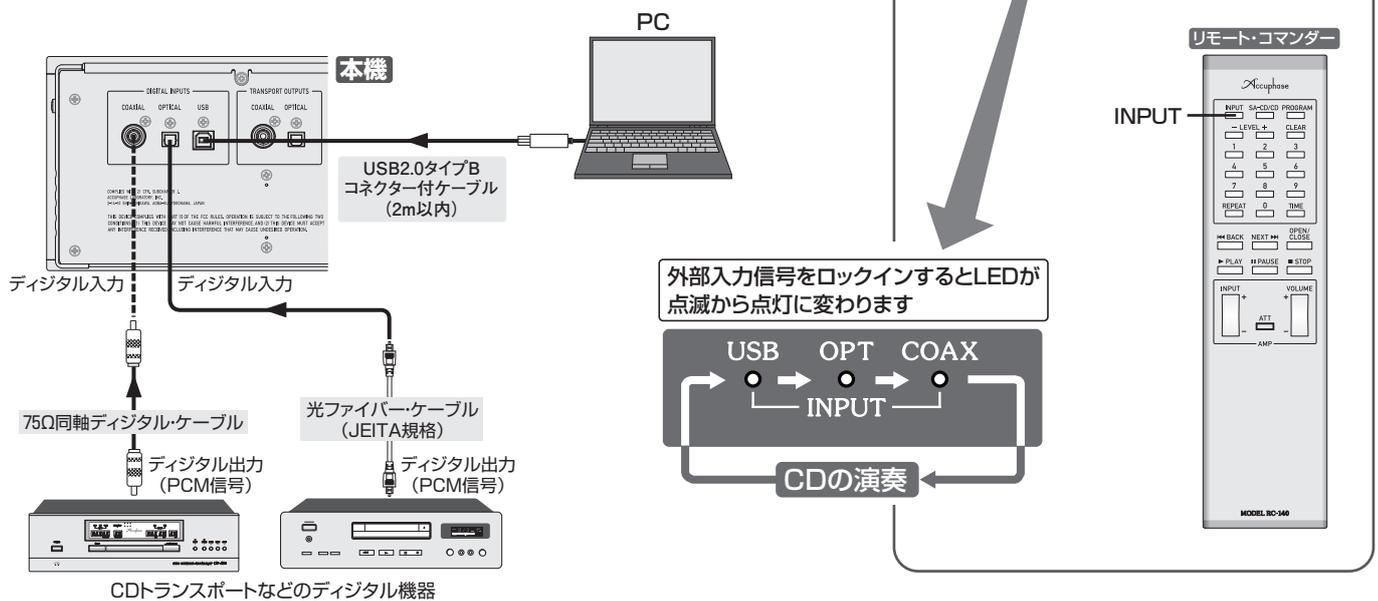


7. デジタル端子の活用方法

7.1 デジタル入力信号の再生

本機に他のCDプレーヤーなどデジタル機器のデジタル信号を入力すると、高音質な演奏をお楽しみいただけます。

- USB端子を使用するには、PCと接続する前に、本機に付属するUSBドライバソフトウェアをPCにインストールする必要があります。詳しくは別紙のUSBユーティリティ3・セットアップガイドを参照してください。
- 最新のUSBドライバソフトウェアは当社ホームページ <https://www.accuphase.co.jp/> 上でご案内いたします。
- USB端子に接続したPCの設定や操作方法はPCの取扱説明書をご覧ください。



操作手順

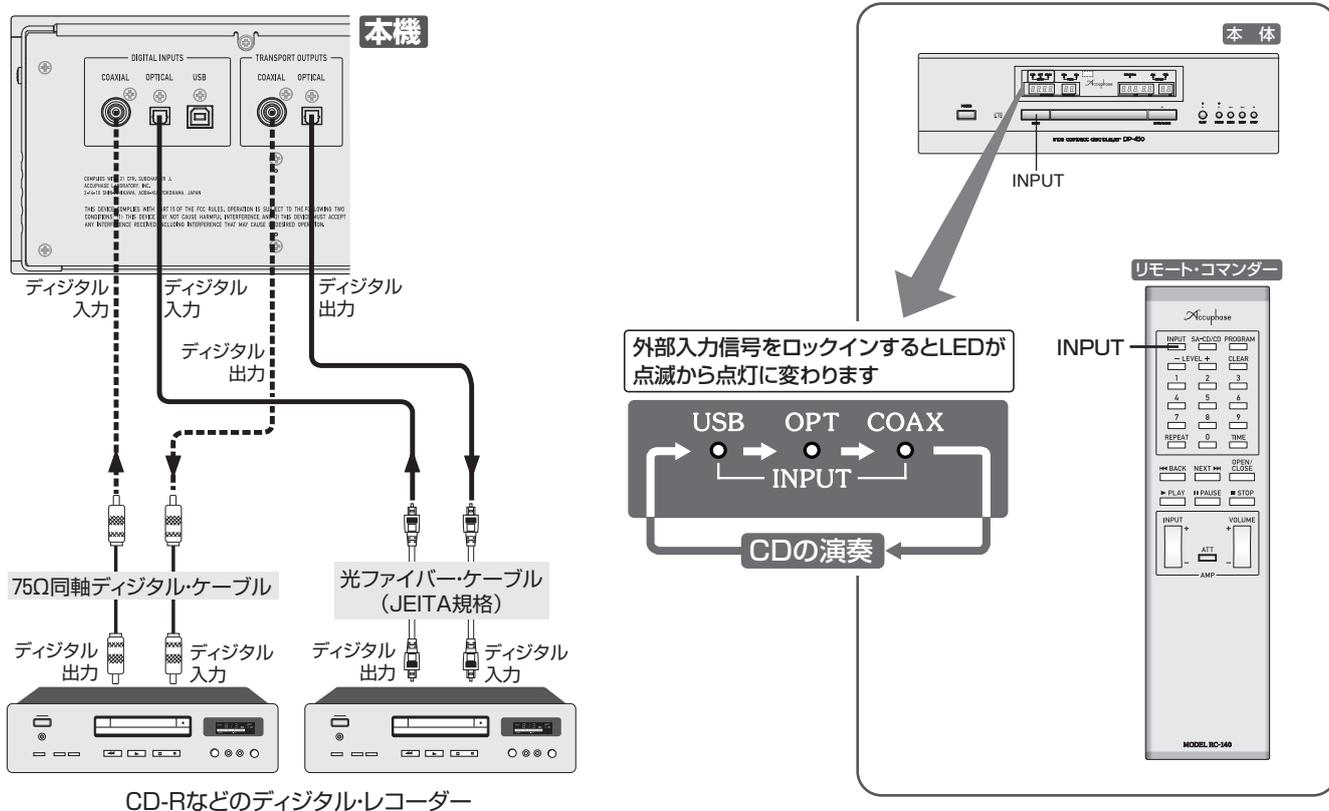
- ① CDトランスポートなど外部機器のデジタル出力端子と本機の「DIGITAL INPUTS」端子を接続します。
- ② 各機器の電源を入れます。
- ③ 本体またはリモート・コマンドーの **INPUT** ボタンで、外部入力機器 (USB、OPTICAL、COAXIAL) を選択します。
- ④ 外部接続機器を操作して演奏をお楽しみください。

注意

- OPTICALとCOAXIALの入力端子には、PCM信号を入力してください。送信機器側でPCM信号への切り替えが必要な場合もあります。
- 光ファイバーは、曲げなどの力には非常に弱く、断線する場合があります。長さに余裕があるときは、セットの後ろで丸く (直径10cm以上) 束ねておいてください。決して強く曲げないでください。切断、再加工などはできません。
- 光ファイバーは、コア (芯材) に光信号が通ります。プラグの先端のキズ、汚れ、レセプタクルの中の異物は大敵です。使用しない時には、必ずキャップを付けておいてください。
- 光ファイバーの抜き差しは、プラグをしっかり持って行ない、ファイバーを引っ張らないように注意しましょう。

7.2 デジタル・レコーダーでの録音と再生

デジタル・レコーダーを接続すると、CDの録音と再生ができます。



録音

- ① 本機で再生したCDの音をスピーカーで確認します。
- ② レコーダーで録音時のサンプリング周波数(44.1kHz)を設定します。
- ③ レコーダーで録音をスタートします。
- ④ 本機でCDを再生します。

注意

- 録音中に **INPUT** ボタンでデジタル入力端子に切り替えても、本機のトランスポート出力端子からはCDの信号を出力します。ただし、アナログ出力端子からは **INPUT** ボタンで選択した信号を出力します。
- SCMS (シリアル・コピー・マネージメント・システム)により、一度デジタル録音で作成されたソースは、他のDATやMDにデジタル録音できません。
- デジタル信号のまま録音する場合、ソース側とレコーダー側のサンプリング周波数が合わなければ録音できません。
- デジタル・レコーダーに録音すると、すべてのトラックは結合されて1つのトラックになります。

メモ

トランスポート出力の各端子には同じ信号が出力されますので、2台のデジタル・レコーダーを使えば同時に録音することができます。

再生

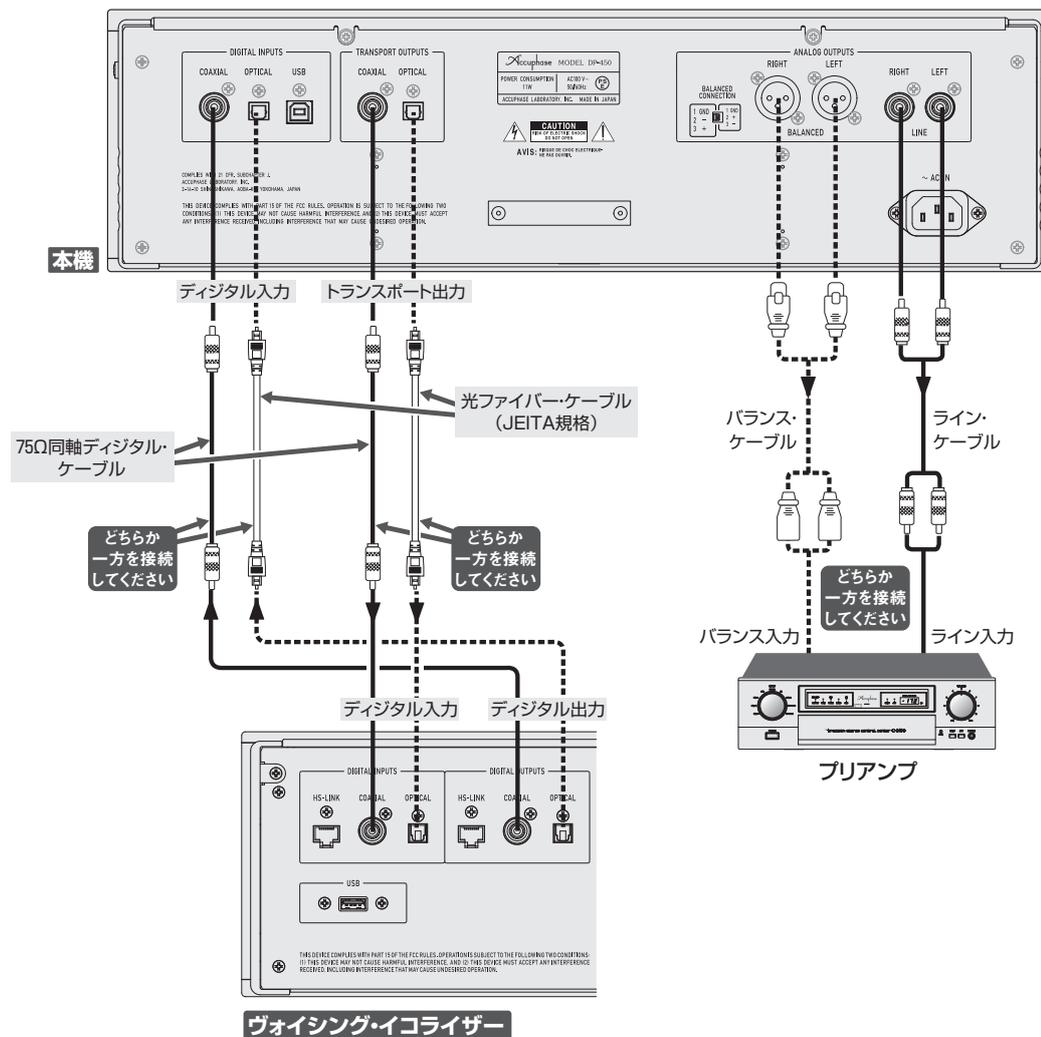
- ① 本体またはリモート・コマンダーの **INPUT** ボタンで、デジタル・レコーダーを選択します。
- ② デジタル・レコーダーで音楽を再生します。

7.3 ヴォイスング・イコライザーとのデジタル接続

ヴォイスング・イコライザーを接続する場合、プリアンプとパワーアンプの間にアナログ信号でヴォイスング・イコライザーを接続する方法を推奨しております。この方法では全ての音源をヴォイスング・イコライザーで補正することができます。

一方、CDの演奏のみをヴォイスング・イコライザーで補正したい場合には、本機とヴォイスング・イコライザーをデジタル信号で直接接続することが可能です。

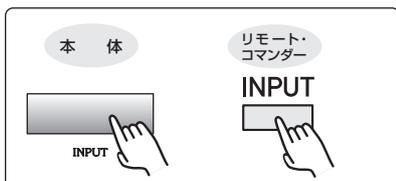
アナログ信号で接続する場合は、ヴォイスング・イコライザーの取扱説明書をご参照ください。



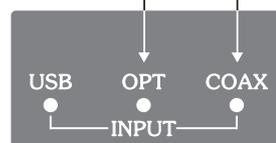
デジタル端子
の活用方法

デジタル入力の選択

本体またはリモート・コマンドの **INPUT** ボタンで、COAXIALまたはOPTICALを選択します。



光ファイバー入力 同軸ケーブル入力



デジタル入力信号をロックインするとLEDが点滅から点灯に変わり、**10**ディスプレイ部にサンプリング周波数を5秒間表示します。(12ページ)

OPTまたはCOAXを選択します

注意

INPUT ボタンを押してヴォイスング・イコライザーの接続が外れると、音量が急に大きくなることがあるのでご注意ください。

8. 保証特性

[保証特性は JEITA 測定法 CP-2402A に準ずる]

トランスポート部

読み取り方式

非接触光学式

レーザー・ダイオード発光波長

790nm

レーザークラス

クラス1レーザー機器(IEC 60825-1)

トランスポート出力

OPTICAL フォーマット : JEITA CP-1212準拠

COAXIAL フォーマット : IEC 60958準拠

S/N

119dB

ダイナミックレンジ

116dB

チャンネルセパレーション

113dB (20~20,000Hz)

出力電圧・出力インピーダンス

BALANCED : 2.5V 50Ω 平衡 XLRタイプ

LINE : 2.5V 50Ω RCAフォノジャック

出力レベル・コントロール

0dB~-60dB (デジタル方式)1dBステップ

電源

AC100V 50/60Hz

消費電力

11W

最大外形寸法

幅465mm × 高さ151mm × 奥行393mm

質量

13.7kg

付属リモート・コマンダー RC-140

リモコン方式 : 赤外線パルス方式

電源 : 単3形乾電池2個使用

最大外形寸法 : 50mm×192.5mm×20.5mm

質量 : 212g(電池含む)

●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。

JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本産業規格「電磁両立性-第3-2部: 限度値-高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

著作権について

放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

デジタル・プロセッサ部

デジタル入力

USB

フォーマット : USB2.0ハイスピード(480Mbps)準拠

適合ケーブル : USB2.0タイプBコネクタ付ケーブル

OPTICAL

フォーマット : JEITA CP-1212準拠

適合ケーブル : JEITA規格光ファイバーケーブル

COAXIAL

フォーマット : IEC 60958

適合ケーブル : 75Ω同軸デジタルケーブル

サンプリング周波数

| 入力 | フォーマット (2ch) | サンプリング周波数 | ビット数 |
|---------|-----------------|--|-------|
| USB | DSD | 2.8 / 5.6 / 11.2MHz (11.2MHz: ASIOのみ) | 1 |
| | PCM | 32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 / 352.8 / 384kHz | 16~32 |
| OPTICAL | PCM | 32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96kHz | 16~24 |
| COAXIAL | PCM | 32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz | 16~24 |

D/Aコンバーター

4MDS+方式

周波数特性

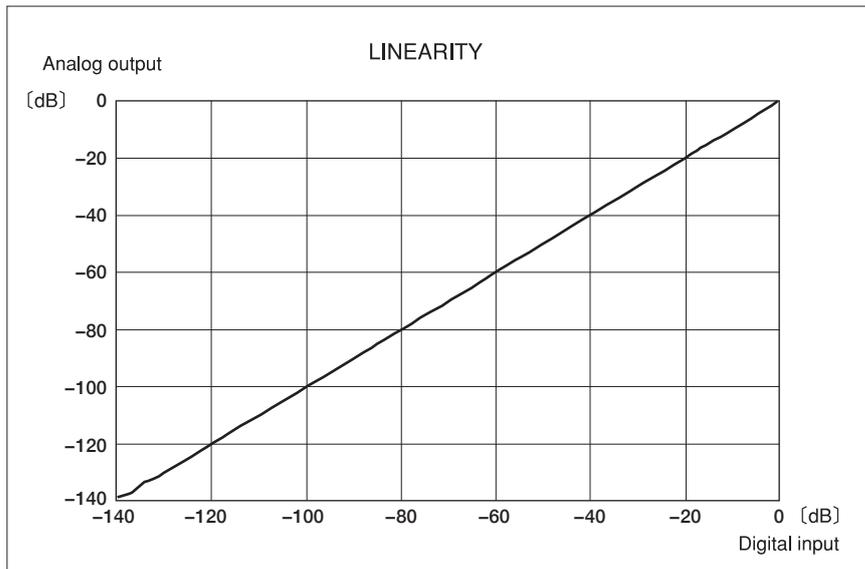
0.7~50,000Hz +0, -3.0dB

全高調波ひずみ率 + 雑音

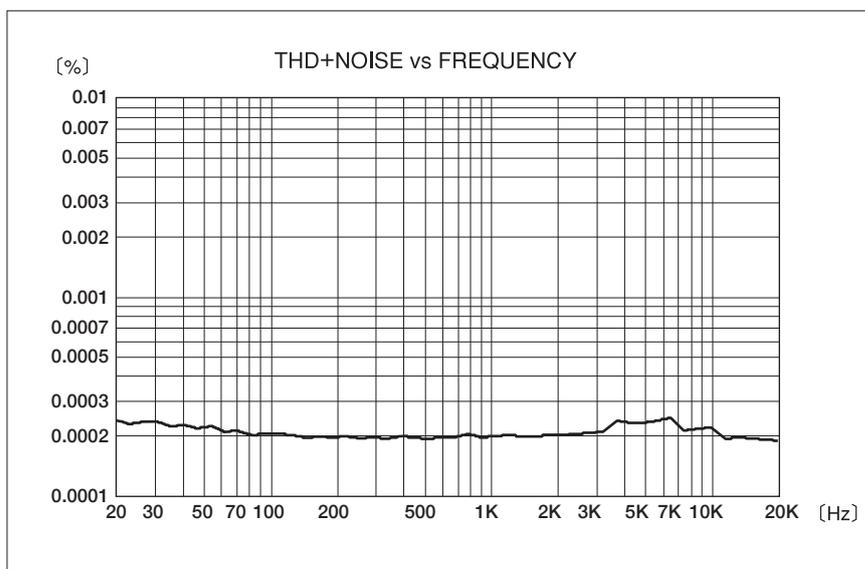
0.0008% (20~20,000Hz間)

*本機の仕様・特性および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

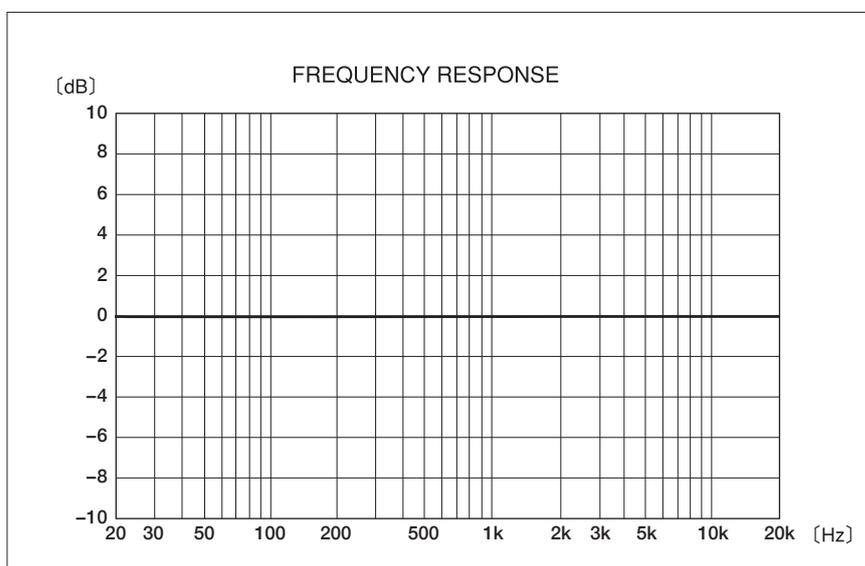
9. 特性グラフ



リニアリティ
(デジタル入力対アナログ出力)



全高調波ひずみ率
(雑音含む) 対周波数特性

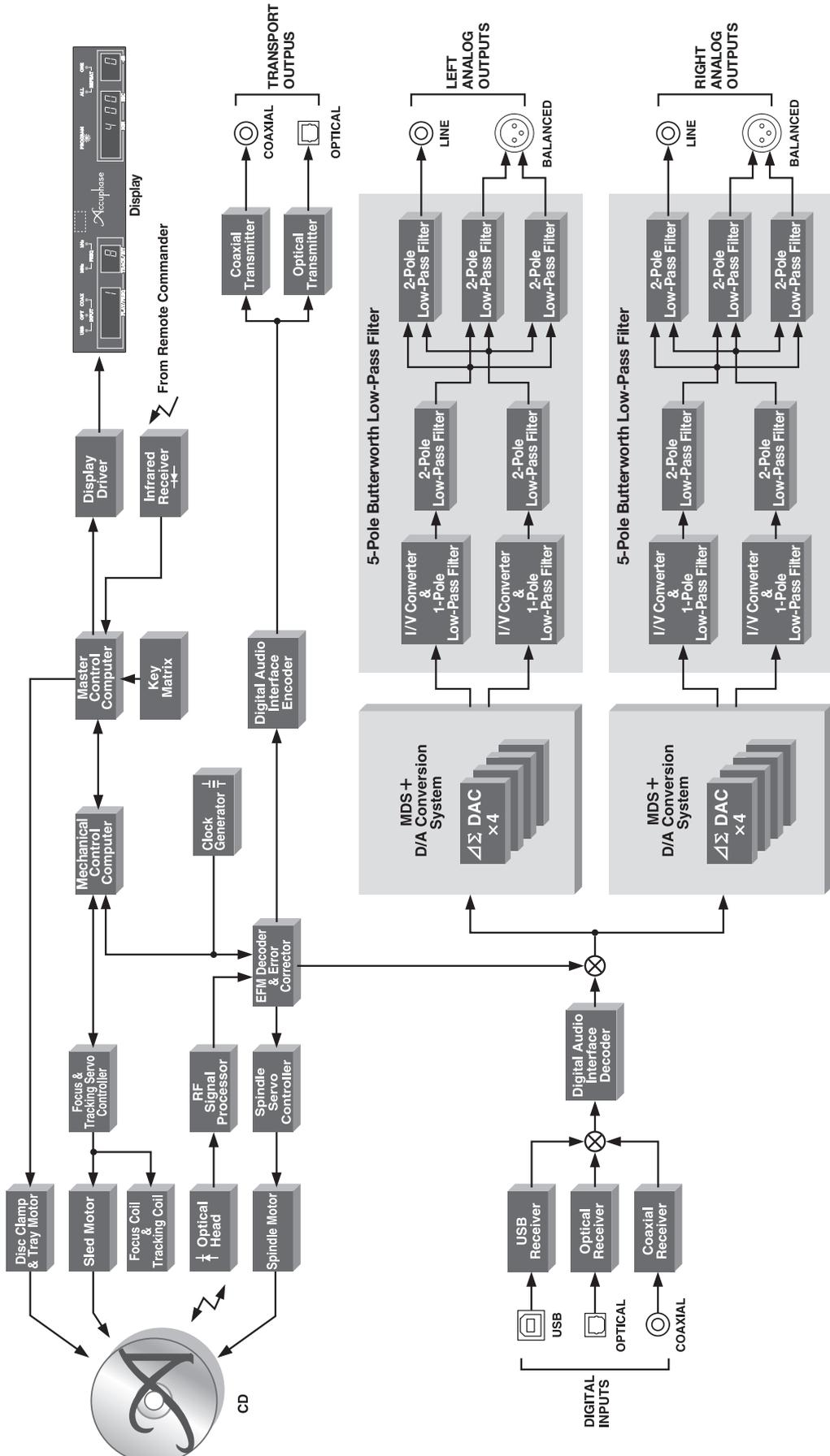


周波数特性

保証特性

特性グラフ

10. ブロック・ダイアグラム



ブロック・ダイアグラム
故障がなるとは
思われるときは

11. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。
これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

注意 : 接続を変えるときは、必ず各機器の電源スイッチを切る。

| 現象 | 原因等 | 対処方法 |
|-------------------------------------|---------------------------------------|--|
| 電源が入らない。 | 電源コードが抜けている。 | 本体側とコンセント側の挿入箇所を確認します。 |
| | 電源コードが傷んでいる。 | 危険ですので傷んでいる電源コードは使用せず、当社製品取扱店または当社品質保証部へご連絡ください。 |
| デジタル出力で接続した機器がロックしない。 | 接続した機器の入力選択が異なる。 | 接続した機器の入力をお確かめください。 |
| 演奏が始まらない | 外部入力を選択している。 | [INPUT]ボタンでCD演奏を選択します(6ページ参照)。 |
| | ピックアップ・レンズが結露している。 | 電源を入れてディスクを取り出し、1時間ほど経過すると結露は自然になくなります。 |
| | 本機では演奏できないディスクを装着している。 | 本機で演奏できるディスクをご確認ください(3ページ参照)。 |
| | ディスクのセンター・ホールにバリが残っている。 | バリを取り除いてください(3ページ参照)。 |
| 音が途切れる。 雑音が出る。 演奏途中でディスクが止まる。 | ディスクに反りや汚れや傷がある。 | ディスクをご確認ください。 |
| | 光ファイバーケーブルのプラグが汚れている。 | 光ファイバーケーブルのプラグをご確認ください。 |
| | ディスクのセンター・ホールにバリが残っている。 | バリを取り除いてください(3ページ参照)。 |
| 両方または片方のスピーカーから音が出ない。 | 接続が正しくされていない。 | 全ての機器が正しく接続されているか確認します。 |
| | 信号が出力されていない。 | 全ての機器が信号を出力する状態であるか確認します。 |
| 片方のスピーカーから音が出ない。 | 上記“両方または片方のスピーカーから音が出ない。”の原因に該当しない場合。 | 下記“片方のスピーカーから音が出ない場合に原因を探す方法”をお試しください。 |
| 定位感がはっきりしない。 | 片方のチャンネルだけ位相が逆になっている。 | スピーカー・ケーブルの極性(+/-)が正しいか確認します。 |
| リモート・コマンダーで操作できない。 | 電池が入っていない。 | 電池を入れる。 |
| | 電池の極性が異なる。 | 電池ケースの⊕⊖を確認し、電池を正しく挿入する。 |
| | 電池が切れている。 | 新しい電池と交換する。 |
| | 受光部付近に障害物がある。 | 受光部付近に障害物を置かない。 |
| 電源スイッチを入れると自動的に演奏が始まる。 | テレビやインバーター照明等の影響で、受信できない。 | テレビやインバーター照明等から離す。 |
| 電源スイッチを入れると自動的に演奏が始まる。 | パワー・オン・プレイ機能をONに設定されている。 | パワー・オン・プレイ機能をOFFに設定する。(16ページ参照)。 |

片方のスピーカーから音が出ない場合に原因を探す方法

注意：接続を切り替える時は、必ず各機器の電源を切る

| 手順 | 方 法 | 結 果 | 原 因 |
|----|---|-----------------------|---|
| 1 | 左右のスピーカーケーブルの接続を以下のように入れ替えます。 ●パワーアンプ(またはプリメイン・アンプ)の左チャンネル → スピーカーの右チャンネル ●パワーアンプ(またはプリメイン・アンプ)の右チャンネル → スピーカーの左チャンネル | 同じチャンネルのスピーカーから音がでない。 | スピーカーケーブルの接続やスピーカーに問題があると考えられます。 |
| | | 反対チャンネルのスピーカーから音がでない。 | プレーヤーまたはリアンプまたはパワーアンプ(またはプリメイン・アンプ)に問題があると考えられます。さらにセパレート・アンプの場合には手順2を、プリメイン・アンプの場合は手順3を行います。 |
| 2 | ケーブルの接続を以下のように入れ替えます。 ●リアンプの左チャンネル → パワーアンプの右チャンネル ●リアンプの右チャンネル → パワーアンプの左チャンネル | 同じチャンネルのスピーカーから音がでない。 | パワーアンプに問題があると考えられます。 |
| | | 反対チャンネルのスピーカーから音がでない。 | プレーヤーまたはリアンプに問題があると考えられます。さらに手順3を行います。 |
| 3 | ケーブルの接続を以下のように入れ替えます。 ●本機の左チャンネル → プリアンプ(またはプリメイン・アンプ)の右チャンネル ●本機の右チャンネル → プリアンプ(またはプリメイン・アンプ)の左チャンネル | 同じチャンネルのスピーカーから音がでない。 | リアンプ(またはプリメイン・アンプ)に問題があると考えられます。 |
| | | 反対チャンネルのスピーカーから音がでない。 | プレーヤーに問題があると考えられます。 |

ブロック・ダイアグラム
故障かな?と思われるときは

12. アフターサービスについて

保証書について

- 保証書は本体付属の『お客様カード(保証書発行はがき)』の登録でお送りいたしますので、「お客様カード」を**当社品質保証部に必ずご返送ください。**
- 『お客様カード』の『お客様情報欄』には付属の『目隠しシール』を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、**本機の保証期間はご購入日から5年間です。**
- 『品質保証書』の無い場合は、**全て有償修理となります**ので、『お客様カード』は必ずご返送ください。
- 『お客様カード』をご返送いただく時、ご購入日等を記入して頂きますが、下記の場合には『品質保証書』の発行ができないことがあります。
 - *ご購入頂いた購入日と弊社からの製品出荷日とが大きく異なる場合。
 - *『お客様カード』が返送されないまま、転売(インターネット等)された場合。
 - *長期間『お客様カード』の返送がない場合。
- オプション類には『お客様カード』を付属していませんが、製品出荷日をご購入日として弊社が登録し、『5年間保証』とさせていただきます。

保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



注意

保証期間以降、長期に渡って安全にご使用いただくために、当社での定期的な点検を行ってください。内容については当社品質保証部にご相談ください。

その他

- 本機は絶対に分解や改造をしないでください。修理ができない場合があります。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。
The Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX 045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理のお問い合わせが可能です。
<https://www.accuphase.co.jp/>

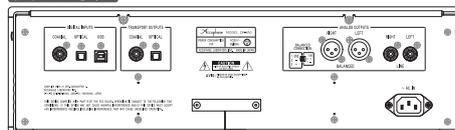
修理を依頼する場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご住所、氏名、電話番号
- ご購入日、ご購入店
- 故障状況：できるだけ詳しく

リアパネル



シリアル番号

- * 梱包材は、輸送時に必要となりますので、可能であれば保管しておいてください。

enrich life through technology



ACCUPHASE LABORATORY, INC.
アキュフェーズ株式会社
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
TEL.045-901-2771(代) FAX.045-901-8959
<https://www.accuphase.co.jp/>